

安保中央

日米安保改定・発効 60 年 国民世論・運動で条約廃棄を

軍事同盟に代わる平和の枠組みを考える集い

安保破棄中央実行委員会は6月10日、安保条約の改定・発効60年の23日を前にして、「軍事同盟に代わる平和の枠組みを考える集い」を東京・文京区の全労連会館で開きました。集いは全国にライブ配信（ネット中継）もおこなわれました。

主催者あいさつした小田川義和・全労連議長は、コロナ後の世界は憲法が生かされ世界を考える節目にしたいと述べました。

講演は、渡辺治・一橋大学名誉教授が「憲法と安保一軍事同盟に代わる平和の枠組みを」と題して行われました。渡辺氏は、日米安保をめぐる攻防を5期に分けて詳しく述べ、安倍改憲を阻んで、軍事同盟に代わる平和の枠組みについて語りました。安倍改憲を阻止する共同から安倍政権を代える共同が生まれてくると訴えました。会場から、コロナ後の世界についての質問に「新自由主義でなく軍事によらない世界」が求められていると述べました。

安保破棄中央実行委員会の東森英男事務局長が「安保60年アピール」を提案し、採択されました（アピール別記）。



渡辺治氏の講演(10日、全労連会館)

「集い」には、日本共産党から井上哲士・参議院議員が参加し、あいさつしました。

《安保中央6月常任幹事会開く》

安保破棄中央実行委員会は10日、「集い」の前、全労連会館で常任幹事会を開きました。

東森事務局長が辺野古新基地建設反対・普天間基地の即時閉鎖・撤去、日米地位協定の抜本的改定を求める署名の推進など当面のとりくみを報告・提案し、確認しました。会議には、9団体から13人が参加しました。

「軍事同盟に代わる平和の枠組みを考える集い」の視聴について
安保破棄中央実行委員会のホームページから視聴できます。

日米安保発効60年 アピール

いのちと暮らし・平和な世界のために、軍事同盟からの離脱を

いま、新型コロナウイルスの感染拡大により、世界と日本は未曾有の危機に直面しています。

わが国においては、歴代政権による保健所や公的病院の大幅な削減の中で、「医療崩壊」寸前の危機が生まれました。政府の貧弱な補償制度のもとでの「自粛要請」のなか、労働者の首切りや、中小業者の廃業など低所得者層に深刻な危機の押しつけが続いています。

コロナ危機のなか、国民のいのちと暮らしを軽視し、自らの政権延命だけを優先する姿勢の矛盾が露呈したのです。同時に、今回の事態は、歴代政権が強行してきた新自由主義の「構造改革」による「効率至上主義」の破たんがあります。

一方、増大する軍事費が大きな問題です。今年度の軍事費は5兆3133億円、中期防衛力防衛計画では2019～23年度に27兆4700億円が計上されています。これは、1機160億円という攻撃型最新鋭戦闘機F35を147機も“爆買い”するトランプ政権いいなりの結果にほかなりません。

国連のグテレス事務総長が3月23日、世界がコロナウイルスという「共通の敵」に立ち向かうと呼びかけたなか、難民や女性、子どもを守ることに集中するための「世界のあらゆる場所での停戦」が重要です。

「コロナ後」の日本の政治は、大軍拡予算を削って、本当に国民の命と安全、暮らしが最優先される政治を実現すること、憲法を生かした平和の構築にこそ求められます。

現行日米安保条約と日米地位協定は、今年6月23日、発効60年を迎えます。この条文は60年間全く変わりませんでしたが、アメリカの世界戦略に従う政治のもとで、日米安保は侵略的条約に大きく変貌しました。2015年に強行された安保法制＝戦争法のもとで、米軍とともに海外に侵攻する自衛隊の大軍備増強と軍事一体化が、9条改憲策動と一体にすすんでいます。また、日米安保は、米軍基地だけでなく、外交、経済、財政など日本の国家体制全般について規定し、あらゆる分野に“アメリカいいなり政治”のくびきを強いています。

一方、在日米軍による事件、事故、爆音などの被害は戦後75年間絶えることなく、沖縄をはじめ全国各地で国民の命と生活を脅かしています。日米地位協定の抜本改定は一刻の猶予もならない課題です。

この間40年にわたり、日米安保条約批判が多くのメディアでもタブー視され、国民に「安保の真実」が知らされない状況が長く続いています。しかし、市民と野党の共闘の前進の中で、辺野古新基地反対や日米地位協定改定も位置づけられ、日米安保条約の「真実」を明らかにしていく条件が広がっています。

安保60年の節目の年にあたり、コロナとのたたかいかにも世界の流れにも逆行する日米安保の矛盾を国民的に明らかにし、軍事同盟からの脱却＝日米安保条約廃棄～国民世論を高めましょう。戦争も軍事同盟もない世界こそ、私たちの輝かしい未来への道であることに確信をもって運動を広げましょう。

以上